

弥生時代と邪馬台国

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

稲作が広まって社会はどう変わり、どんなクニが生まれたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 弥生時代の暮らし

弥生時代

稲作

米づくり。縄文時代の終わりがら大陸から伝わった。

弥生土器

縄文土器より薄手でかたい、赤褐色の土器。

高床倉庫

湿気やねずみを防ぐため床を高くした、稲の倉庫。

青銅器

銅とすずの合金の道具。おもに祭りに使われた。

縄文時代の終わりごろ、大陸から九州北部に稲作が伝わり、やがて東日本へも広まった。このころ、縄文土器より薄手でかたい弥生土器から、この時代を弥生時代という。稲の穂は石でつくった石包丁でつみ取り、湿気やねずみを防ぐ高床倉庫にたくわえた。

大陸からは、祭りに使われたつりがね形の銅鐸などの青銅器や、武器や工具になる鉄器も伝わった。稲作が広まると、土地や水をめぐってむら同士の争いが起こり、強いむらが周りをまとめてクニができていった。佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、堀やさくで囲まれたむらのあとである。

2 中国の歴史書に記された倭

中国からみた倭

倭

中国の歴史書で、日本(日本列島の人々)を指した呼び名。

金印

57年に後漢の皇帝から奴国の王に授けられたとされる印。

卑弥呼

邪馬台国の女王。まじないで政治を行ったとされる。

当時の日本には文字の記録がないため、弥生時代のような中国の歴史書からもわかる。『漢書』地理志には、紀元前1世紀ごろ、倭(日本)が100あまりの国に分かれていたとある。『後漢書』東夷伝には、57年に奴国の王が後漢に使いを送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられたとある。この金印とみられるものが、江戸時代に福岡県の志賀島で見つかっている。

『魏志倭人伝』には、239年に邪馬台国の女王卑弥呼が魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や銅鏡を授かったとある。卑弥呼は、30ほどの国々を従え、まじないによって政治を行っていたとされる。邪馬台国の位置には、近畿地方とする説と九州地方とする説がある。

歴史書	記されていること
『漢書』地理志	紀元前1世紀ごろ、倭は100あまりの国に分かれていた
『後漢書』東夷伝	57年、奴国の王が後漢から金印を授かった
『魏志倭人伝』	239年、邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送った

問いへの答え

縄文時代の終わりごろに大陸から稲作が伝わると、人々は弥生土器や石包丁を使い、収穫した稲を高床倉庫にたくわえた。土地や水をめぐる争いから、強いむらが周りをまとめてクニができた。中国の歴史書には、57年に奴国の王が金印を授かったことや、239年に邪馬台国の女王卑弥呼が魏に使いを送ったことが記されている。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

